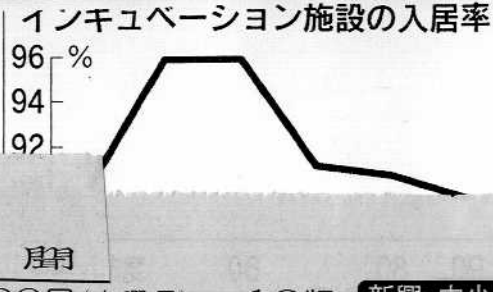


同フラスは26室で主に造業のベンチャーが入。現在は東工大がベンチャーがほとんど。術志向の強い他、利用を呼び掛。東京都が運営す



の資金調達を支援するサービスを始めた。連携しているベンチャーキャピタルや医薬品メーカーの人脈を活用。中国など海外の企業や投資会社から

入居率低下続く 起業意欲減退など

インキュベーション施設増加し、現在は全国で200カ所以上にあるとされている。全国32カ所では2000年前後から

タッチパネルに「触感」

東京大学発ベンチャーの青電舎(相模原市、権藤雅彦社長)はタッチパネルにボタンを押したような触感を与える技術を開発した。写真。パネルにタッチした瞬間に、その部分を短く振動させ、実際にボタンを押した時の感じに近づける。高機能携帯電話など



東大工学系研究科の樋口俊郎教授の助言を得て、タッチ

青電舎が新技術

棒以下の大きさで衝撃波を生かせる装置を開発した。全体が震えるのではなく、触感を鮮明にできる。力を発生させる場所や方向も設定しやすいという。回路を合わせた価格は200〜300円を想定。韓国のタッチパネルメーカーなどから引き合いがあるといい、携帯電話メーカーなどと連携しながら実用化を目指す。

2位

ス栽培

場の2倍に増やせる。2011年中心の設置を目指す。

に養分を溶かした水を張り、太陽光を通すフィルムでドーム状に覆う構造。側部から外気を送り、頂上部から排出して全体を膨らませ、温度や湿度は自動制御する。

通常の植物工場は直線上に配置したプールに栽培。備えて苗と苗の間を空けたり、別の棚に植え替えたりする必要があった。新工場は円形の栽培棚を自動で1日約1回転させる。中心部に苗を植え、外周部へ移動させ適正な栽培密度を維持する仕組み

したレタスが外縁に達した収穫期を迎える。約300平方メートルの栽培スペースを無駄なく利用できる。工場1棟当たり年間8万7千株のレタスを収穫できるといふ。人手による作業は苗植えや収穫に限られ、人件費も抑

今秋以降、神奈川県秦野市などに15棟を設置。外食チェーンなどにレタスを出荷して実績を積み、同業他社に工場自体を販売する。価格は2500万円程度を見込む。グランパは大成建設などの出資を受け2004

自治体の省エネ。まず群馬 防犯灯

施設を運営する中小企業基盤整備機構の09年度の入居率は89・8%。06年度の95・9%をピークに低下が続く。

直接の原因は起業意欲の減退のほか、業績が悪化した企業のオフィス縮小、大学発ベンチャーの減少など。都市部を中心に小規模なオフィスを低料金で貸し出すサービスが増え、入居企業が流れたとの指摘もある。立地の悪さもインキュベーション施設の課題のひとつ。都心部から離れた場所にあることが多い